

I

本学の概要

I 本学の概要

II 学修の目的・方針・修業年限

III 学部・国際大学単位修得要領

教育課程（2014年度以降入学生対象）

教育課程（2014年度以前入学生対象）

各種プログラム・制度等

資格課程（2014年度以降入学生対象）



建学の精神

パックス ムンディ ペル リングアス
PAX MUNDI PER LINGUAS

— 言語を通して世界の平和を —

本学が京都外国語学校として創立された1947年(昭和22年)5月、終戦後間もないこの当時に何よりも求められたものは世界の平和であり、その基盤としての国際的理解でした。そして、この国際的理解を図るための外国語をマスターし、その文化・経済・社会に熟知した人材の育成は急務でした。

しかし、我々日本人が外国語を身につけることは、日本語の独特な構造が一種の妨げとなり、更には我が国特有の歴史に由来する伝統と習慣とがいよいよ外国語の修得を容易でないものになっています。つまり、島国に住む我々が一つの外国語をマスターするには、国境を接する国と国との間における外国語修得とは比較にならない困難さを伴うわけで、これに必要なものは、才能にもまして強固な意志と不断の努力であると言えます。

本学の建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS”(言語を通して世界の平和を)とは、世界平和達成への創立者の強い願いが込められており、創立以来、「不撓不屈」を教育・研究の基本精神としているのは、外国語を専攻する者にとって不断の努力が何よりも重要だからです。

■ シンボルマーク



本学は、建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS”
—言語を通して世界の平和を—の達成を願い、この精神を体得し、
卒業後もこの精神で不断の努力を惜しまぬ学生の育成をめざ
しています。シンボルマークは、地球の中に建学の精神を掲げ、
育成された学生が、平和の使者として世界にはばたく姿を
白い鳩で表したものです。

沿革

1947年(昭和22年)5月	京都外国語学校を創立
1950年(昭和25年)4月	京都外国語短期大学を設置 京都外国語短期大学英語科(昼間部)を開設
1952年(昭和27年)4月	京都外国語短期大学英語科第二部(夜間部)を開設 京都外国語短期大学英語科に教職課程を開設
1956年(昭和31年)4月	京都外国語短期大学英語商業科(昼間部)を開設 京都外国語短期大学専攻科(昼間部)を開設
1959年(昭和34年)3月	京都外国語短期大学英語科(昼間部)を廃止 京都外国語短期大学英語商業科(昼間部)を廃止 京都外国語短期大学専攻科(昼間部)を廃止
4月	京都外国語大学を設置 京都外国語大学外国語学部英米語学科を開設 京都外国語大学に教職課程を開設
1963年(昭和38年)4月	京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科を開設
1964年(昭和39年)4月	京都外国語大学外国語専攻科英米語専攻を開設
1966年(昭和41年)4月	京都外国語大学外国語学部フランス語学科を開設
1967年(昭和42年)4月	京都外国語大学外国語学部ドイツ語学科・ブラジルポルトガル語学科を開設
1971年(昭和46年)4月	京都外国語大学大学院(修士課程)を設置 京都外国語大学大学院(修士課程)外国語学研究科英米語学専攻・フランス語学専攻・ドイツ語学専攻・ブラジルポルトガル語学専攻を開設
1972年(昭和47年)4月	京都外国語大学大学院(修士課程)外国語学研究科イスパニア語学専攻を開設 京都外国語大学大学院に教職課程を開設
1974年(昭和49年)4月	京都外国語大学外国語学部中国語学科を開設
1977年(昭和52年)4月	京都外国語大学に図書館司書・学校図書館司書教諭課程を開設
1980年(昭和55年)4月	京都外国語大学留学生別科を開設
1982年(昭和57年)3月	京都外国語学校を廃校
1989年(平成元年)4月	京都外国語大学に博物館学芸員課程を開設
1992年(平成4年)4月	京都外国語大学外国語学部日本語学科を開設
1997年(平成9年)4月	京都外国語大学外国語専攻科東アジア言語・文化専攻を開設
2000年(平成12年)3月	京都外国語短期大学英語科の教職課程を廃止
2004年(平成16年)4月	京都外国語大学外国語学部イタリア語学科を開設
2005年(平成17年)4月	京都外国語大学大学院外国語学研究科 異言語・文化専攻 博士前期課程・後期課程を設置
2006年(平成18年)3月	京都外国語大学外国語専攻科を廃止
2007年(平成19年)3月	京都外国語大学大学院(修士課程)外国語学研究科英米語学専攻・イスパニア語学専攻・フランス語学専攻・ドイツ語学専攻・ブラジルポルトガル語学専攻を廃止
4月	京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科をスペイン語学科に改称 京都外国語短期大学英語科をキャリア英語科に改称
2010年(平成22年)4月	京都外国語大学外国語学部国際教養学科を開設

京都外国語大学 学歌

作詞 小牧健夫
作曲 松平頼則

明るくおらかに

(前奏)

1. 2. 3. 4.
かここも もとこし がくろや わにざま ののしに ふこあは 一トたワ ちバごカ セノのゲ かハみロ わ一ー れヤねエ どシのト、 とワたア、 わケかシ なイくマ れりおマ 一ー一

や、テ、タ、 どせおヒ 一カもエ ぎいいの 二はネ ちマきツ 一ジが一 かワのム らルのル しミツア ン一ーサ りチきケ のヲとノ ひひきヒ カヲよカ り、き、り、 ひきよカ て、も、ズ、 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一

わワわワ れれれれ らららら たしのの だカーゾ 一しく一 しいゆミ 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一

まへみカ ないちガ びワひヤ のノとク 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一 一ー一

一 鴨川の
ふち瀬あれど永久なれや
道義の力真理の光
われら正しく世に生きて
学の道にいそしまん

二 異国の
言葉の林分け入りて
世界に交わる道を拓き
われら四海の同胞と
平和の礎ともに築かん

三 三つころぎし
愛宕の峰の高くおき
思は嵯峨野の月と清く
われらの行く手けわしくも
路ひとすじに踏み迷わじ

四 西山に
日はかげろえど旦また
比叡の嶺染むる朝明の光
われら希望を失わず
かがやく勝利いざかちとらん

京都外国語大学 応援歌

作詞 伊藤督郎
作曲 林 二郎

♩=120

こ が く の み ち に い そ し め る
わ か き が く と の つ ど う と こ わ
れ ら が き ょ う と が い だ い の ふ
と 一 ふ く つ の せ い し ん を と も
よ 一 い ま こ そ し め 一 す 一 の 一 だ
お お み よ お う じ の か ん ろ く を お お き け は し や の こ
の 一 さ け び (ヤア) わ れ ら が ほ こ う は え あ る ほ こ う き ょ
う と が い だ い が い だ い が い だ い き ょ 一 う と が い だ い

世界をつなげ若人よ
荣誉の旗ぞひるがえる
われらが京都外大の
不撓不屈の精神を
友よ今こそ示すのだ

お、見よ王者の貫禄を
お、聞け覇者のこの叫び
やあ！ われらが母校
栄えある母校 京都外大
外大 外大 京都外大

語学の道にいそしめる
若き学徒の集うところ
われらが京都外大の
不撓不屈の精神を
友よ今こそ示すのだ

お、見よ王者の貫禄を
お、聞け覇者のこの叫び
やあ！ われらが母校
栄えある母校 京都外大
外大 外大 京都外大

京都外国語大学 **ディプロマ・ポリシー** (卒業認定・学位授与に関する方針)

外国語学部は専攻する外国語の学修をととして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身に着け、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としています。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としています。

① 構想するために必要な力

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する(問題発見力・解決力)にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い(思考力・判断力)、創造性あふれる企画をまとめる(創造力・企画力)ことができます。

② 実践するために必要な力

自ら提案をまとめ(主体的に取り組む力)、必要な情報を取捨選択して分析し(情報収集力・分析力)、計画的に実行に移す(計画力・実行力)ことができます。

③ 協働するために必要な力

立案した企画を効果的に発表し(プレゼンテーション力)、その重要性を相手に伝え(コミュニケーション力)、ルーツの異なる他者とともに実現していく(多文化共生力)ことができます。

学科ごとの目標は以下のとおりとし、4年の修業年限の中で、各年次で設定する進級基準を満たし、卒業に必要な単位を修得し、卒業研究または卒業論文に対して合格が認められた場合に学士(文学)の学位を与えます。

英米語学科

専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

スペイン語学科

専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

フランス語学科

専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ドイツ語学科

専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ブラジル ポルトガル語学科

専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

中国語学科

専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

日本語学科

専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

イタリア語学科

専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

国際教養学科

高度な英語の運用能力を活かし、世界の社会と文化の諸事象を多角的に理解し、現代の国際社会が直面する地球規模の課題を学際的な視点から捉えることができる幅広い知識を獲得し、問題解決のための方策を他者との協働によって実行できる人材を育成することを目的とします。

京都外国語大学 カリキュラム・ポリシー (教育課程に関する方針)

<p>外国語学部</p>	<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。</p>
<p>教育内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」[言語と平和]を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に学内統一試験や外部試験を実施し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 専攻語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
<p>教育方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における外国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
<p>学習成果 (育成すべき能力)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力 専攻する言語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができます。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 専攻言語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
<p>評価</p>	<p>本学部では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験や統一試験におけるスコア ③ ゼミ担当者の指導下で作成した卒業論文あるいは卒業研究

英米語学科	英米語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部の語学検定試験を実施し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策やキャリアと関連する英語も含め4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。また、言語としての英語の性質を理解するとともに、英語を効果的に教授する実践的な知識と技能を養います。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

※評価については外国語学部と同様

スペイン語学科	スペイン語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② スペイン語教育の必修科目においてスペイン語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学内統一試験によって、スペイン語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ スペイン語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域が抱える諸問題に問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるスペイン語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② スペイン語圏に関する専門知識と多文化共生力 スペイン語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 スペイン語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

※評価については外国語学部と同様

フランス語学科	フランス語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② フランス語教育の必修科目においてフランス語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学内統一試験によって、フランス語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ フランス語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるフランス語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② フランス語圏に関する専門知識と多文化共生力 フランス語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 フランス語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

※評価については外国語学部と同様

ドイツ語学科	ドイツ語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ドイツ語教育の必修科目においてドイツ語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学内統一試験によって、ドイツ語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ドイツ語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について、問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるドイツ語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ドイツ語圏に関する専門知識と多文化共生力 ドイツ語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ドイツ語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

※評価については外国語学部と同様

ブラジルポルトガル語学科		ブラジルポルトガル語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ポルトガル語教育の必修科目においてポルトガル語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学内統一試験によって、ポルトガル語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ポルトガル語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるポルトガル語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学習成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ポルトガル語圏に関する専門知識と多文化共生力 ポルトガル語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ポルトガル語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	

※評価については外国語学部と同様

中国語学科		中国語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 中国語教育の必修科目において中国語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学内統一試験によって、中国語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 中国語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における中国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学習成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 中国語圏に関する専門知識と多文化共生力 中国語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 中国語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	

※評価については外国語学部と同様

日本語学科	日本語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 日本語教育の必修科目において日本語を体系的に学び、「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域を総合的に修得すべく科目を配置します。授業内外でもフィールドワークやインターンシップを実施し、実践力の養成を図ります。 ③ 日本語が用いられている地域や日本語学習者の存在する地域に関して文化、文学を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域の修得にあたっては、フィールドワークやインターンシップなどを円滑に進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 日本語圏に関する専門知識と多文化共生力 日本語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、獲得した知識に基づき、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 日本語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

※評価については外国語学部と同様

イタリア語学科	イタリア語学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② イタリア語教育の必修科目においてイタリア語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学内統一試験によって、イタリア語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ イタリア語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、可能な限りアクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるイタリア語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② イタリア語圏に関する専門知識と多文化共生力 イタリア語圏についての専門知識を獲得し、イタリアの文化に精通するとともに、自らの文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 イタリア語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

※評価については外国語学部と同様

国際教養学科	国際教養学科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 専門教育においては、国際関係及び国際ビジネス分野の必修科目を通じて地球規模の課題に対する問題意識を高め、専門知識を持って課題に取り組む能力を育みます。具体的には、課題を専門知識と学術的方法論に基づき分析する力、課題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。 ③ 英語教育においては、英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。英語教育と国際関係及び国際ビジネス分野の専門教育を融合させ、英語を運用して地球規模の課題に取り組む能力を育みます。 ④ 海外留学、海外インターンシップ、国際ボランティア、海外フィールドワークに関するプログラムへの参加を卒業要件として、異なる文化を背景とする人々と協働できる姿勢と能力を育みます。 ⑤ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における国際関係、国際ビジネス、英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学習成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 地球規模の課題に対する理解と国際関係及び国際ビジネス分野に関する専門知識 地球規模の課題に関心を持ち、国際関係及び国際ビジネス分野についての専門知識に基づく公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 ③ 多文化共生力 国際社会の多様性を理解するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができます。

※評価については外国語学部と同様

京都外国語短期大学 **ディプロマ・ポリシー** (卒業認定・学位授与に関する方針)

キャリア英語科は英語の学修をととして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としています。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としています。

① 構想するために必要な力

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する(問題発見力・解決力)にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い(思考力・判断力)、創造性あふれる企画をまとめる(創造力・企画力)ことができます。

② 実践するために必要な力

自ら提案をまとめ(主体的に取り組む力)、必要な情報を取捨選択して分析し(情報収集力・分析力)、計画的に実行に移す(計画力・実行力)ことができます。

③ 協働するために必要な力

立案した企画を効果的に発表し(プレゼンテーション力)、その重要性を相手に伝え(コミュニケーション力)、ルーツの異なる他者ととも実現していく(多文化共生力)ことができます。

上記の目標を達成すべく、2年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得した場合に準学士(文学)の学位を与えます。

京都外国語短期大学 カリキュラム・ポリシー (教育課程に関する方針)

<p>キャリア英語科</p>	<p>キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に展開します。</p>
<p>教育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を実施し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。
<p>教育方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
<p>学習成果 (育成すべき能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができます。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
<p>評価</p>	<p>キャリア英語科では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験におけるスコア